



白鷗

種高同窓会報

主な内容

あいさつ／2ページ
 学校の様子／3・6・7ページ
 先生・卒業生／4・5ページ

NO.4 2001.3

発行／岩手県立種市高等学校同窓会
 〒028-7912 岩手県九戸郡種市町第38地割94番地110
 TEL 0194-65-2145 FAX 0194-65-5654
 ホームページアドレス <http://www.nnet.ne.jp/~tanekou>
 編集／岩手県立種市高等学校同窓会会報編集委員会

昨年度の会報で一部ご紹介させていたいただきました海洋開発科の実習棟潜水プールが屋内型となり、潜水実習も年間を通じ、快適に行われ、潜水技術の向上も順調に進んでおります。

水中土木科の卒業生の皆さん思い出してみましよう。あの旧実習棟潜水プールは砂ぼこりや花粉、虫、微生物といったものが、水を緑色に濁し、

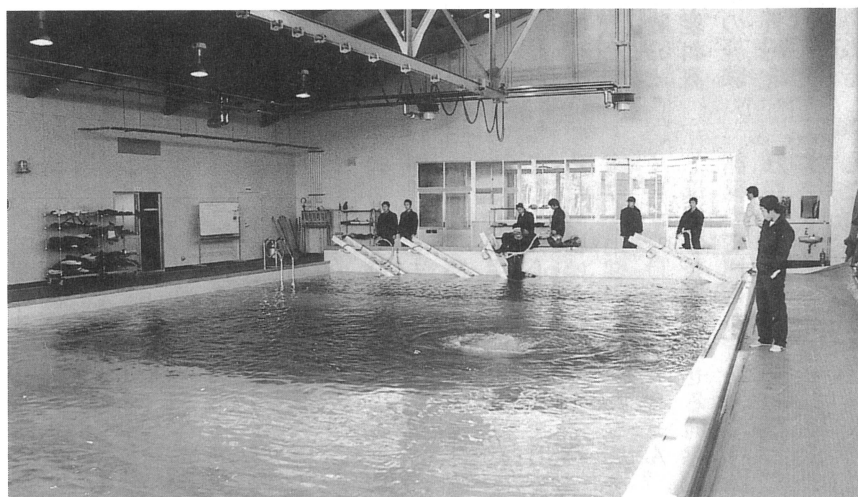
天候が悪いと寒さで震え、わずかにかかった屋根では横からの雨で濡れたり、冬は勿論水を抜き、抜けきらない水は凍っていました。しかし、新実習棟潜水プールは、その時代からはとても想像できない程の快適さで、水は透明、雨風無し、暖房設備ありということ、冬場の実習も可能になりました(写真参照)。またその他にも男女それぞれの更

衣室、シャワー室、トイレも完備され、夏期休業中や種高祭では種市町近辺在住の一般の方々(女性も多数含む)に広く活用されているとともに、新聞やテレビ等でもたくさん取り上げられております。

同窓生の皆さん、二十一世紀を担っていく南部潜りの卵達が巣立つ新実習棟を是非見に来て下さい。



正門から見た実習棟

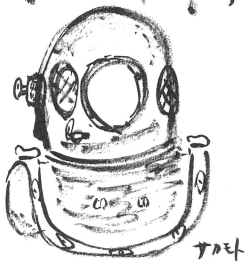


H13. 2. 2 撮影

Q & A

- Q 前のプールと比べて大きさは?
- A 広さ、水深とも同じです。
- Q 潜水実習が通年出来るようですが、何か変化は?
- A 潜水技術の向上が早くなり、海洋での実習も多くなります。
- Q 総工費はどれくらい?
- A 5億6千万円です。
- Q 温水プールですか?
- A 将来の仕事を考えて、温水にはしていません。(予算の関係もありました)
- Q 生徒の反応は?
- A 大変喜んでおり、毎週張り切って実習しています。

海打精神



イラスト

坂本孝太郎先生

あいさつ

同窓会長・学校長



同窓会長 松橋武志

本会の 活性化をめざして

同窓会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私、昨年五月の同窓会総会において再び会長の任を担うことになりました。会の活性化のために精一杯頑張つて参りたいと思ひますので、会員皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会は、昨年一月の八戸、

階上、青森地区での八戸支部結成以後、各支部内での親睦活動や支部と支部の間の交流が活発化し、同窓会全体が少しずつながら活性化して来ていると思ひます。

本年度は、久慈、野田、普代、山形、大野、軽米地区を対象に久慈支部の結成を目指しており、先般、久慈地区の有志の方々の協力により種市高校同窓会久慈支部結成準備委員会が発足し、四月末頃の設立を目指し鋭意努力して戴いているところです。

今後は、東京支部、八戸支部、久慈支部と組織もより充実し、同窓会が今までの、会と各会員という顔の見えにくい一方だけの繋がりに、各支部内の同じ地区に住む会員同志のより多くの交流の機会をつくり、より親睦を深められる、存在意義のある会になって行ければと思ひます。二十一世紀という新しい時代を迎え、我々は、次代を担う後輩たちのためにも、明確な目的をもった、意義のある同窓会を作つて、彼らに引き渡して行くことが、我々の責務であろうかと思ひます。どうか今後とも、会員の皆様方のより一層のご協力をお願い申し上げます。

21世紀を 迎えて



学校長 佐熊 晋

同窓会の皆様方には日頃から本校教育の振興と活性化にひとかたならぬご理解とご支援をたまわつておりますことに心より感謝申し上げます。

平成十二年度は二十世紀から二十一世紀へと新世紀を迎える節目の年となりました。

二十世紀は「戦争の世紀」とか「科学・技術の発展の世紀」とか言われています。よく一昔十年と言いますが、この世紀末だけを見ても日本だけではなく世界も、政治や経済、産業だけではなく社会、そしてそこに住む人々の生活・文化さらには価値観までもが大きく変わってきました。昨日から今日を迎えたからといって世の中が急激に変わることはないことは日頃の経験から分かります。新世紀を迎えることとなるとそう割り切つてもいられない気分になります。

せられます。

この世紀末にかけて青少年の多発する凶悪犯罪が突然世間を騒がせるようになりました。新世紀にはこのような暗い悲しいことが起こらないようにと願わずにはいられませんが、私も教職員だけではなく保護者をはじめ社会共通の願いでもあると思ひます。

学校は教科指導無くしてはその存在意義はなくなるものと考えますが、ここでもう一度子供を育てるといふ教育の不易の部分を開き直し、襟を正していかなければなりません。これまでタブー視されてきた教育基本法についての教育改革国民会議での本格的論議からも見られるように多方面から教育改革が進められようとしています。学校週五日制、新学習指導要領の実施も間近にせまっています。

ひとりひとりが立派な社会人として生きていける、たくましく、心豊かな生徒を育てるためにはこれからは学校、家庭、地域がともに手を携えていかなければなりません。母校の発展に寄せる同窓生諸兄のご期待に背かぬようこれからの教育向上に努めてまいりますと存じます。

同窓生の皆様方にはこれまでも増してご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東京支部報告

平成十二年度同窓会東京支部総会が六月二十四日、午後五時三十分より労働スクエア東京を会場に二十二名の参加を得て開催されました。中村誠事務局長の司会で開会し、新保幸則支部長の挨拶に続き、本部から出席した玉沢修副会長から挨拶を頂きました。学校から出席した佐熊校長先生からは自己紹介並びに実習棟・潜水プールが完成し、落成記念式典が行われた事など学校の様子を含め挨拶があり、引き続き事務局から本部総会の報告がありました。その後、支部の活動をさらに活発にするために支部規約・役員をはずきりさせようと言う事になり、規約、役員について承認されました。懇親会は高城靖雄君の司会、そしてまた持ち歌を披露して頂きながら進められ、大変和やかな雰囲気の中、先輩・後輩の親交を深める事ができました。

東京支部の皆様はますますの活躍をお祈りし、東京支部総会の報告をいたします。

八戸支部報告

平成十二年度同窓会八戸支部総会が八月二十五日、午後六時より芝亭ロー丁店を会場と二十九名の参加を得て開催されました。中村誠事務局長の司会で開会し、川S文彦支部長の挨拶に続いて、本部から出席した松橋武志会長、学校から出席いただいた石川嘉信教頭先生から学校の近況を含めた挨拶のあと、中村事務局長より本部総会の報告並びに八戸支部結成総会時の会計報告がありました。引き続き懇親会に入り、参加した方々の近況報告や昭和三十四年度卒業の高橋信治様からなつかしい話などを聞きながら、和気あいあいの中で有意義な情報交換をかわしながら盛り上がる事ができました。来年度の総会にはもっと多くの会員の参加者が得られるようにと祈り閉会としました。八戸支部の皆様には本当にありがとうございました。

※八戸支部新年交流会開催

去る十三年二月十日、八戸プラザホテルにて新年交流会が行われました。和山勇先生も出席され四十名が懐かしい話や友達等の話題で大変盛り上がる事が出来ました。

新制服紹介

制服が平成十三年度より新制服となります。(写真)



昨年より制服検討委員会を組織して職員の見解を聞き、生徒が着たいと思える制服にしようと全校生徒にアンケート調査をして直接生徒の意見を聞きながら新制服のイメージを固めていきました。沿岸地方独特の「やませ」や冬季の寒さの影響も考慮しなければならず機能面でもしっかりとした新制服ができました。上着は三釦ブレザーでブラックネイビーと言う他校ではあまり見られない色を採用しています。シャツは薄いブルーのカラーシャツ、男子はグレーのストラックス、女子はキュロットスカートと今までの種高制服とはまったく違う雰囲気となっ

学校開放講座

スキューバ潜水体験好評!

ています。釦も今までの校章を象つたものからセミナーハウス「白鷗館」のマークとなつているカモメとセーラー服の胸の「T」マークを合わせた新しいデザインです。昭和四十五年から現在まで三十年間続いた制服も二十一

世紀の到来とともに新制服に替わりキャッチフレーズを「地域にはばたく二十一世紀の白鷗」とし、種高の新しい顔として4月より登場します。同窓生のみなさんは是非新制服を見に種市高校にお立ち寄り下さい。

今年度新たな試みとして、新実習棟潜水プールを近隣に住の一般の方々に開放し、スキューバ潜水の体験をしてもうございました。期間は、8月1日～11日の夏季休業中で、1回の講座を



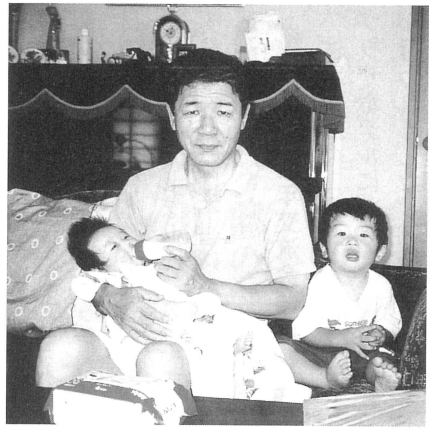
4日間コース(平日夜のみ)と2日間コース(土日一日中)それぞれ10人で行い、今年度も約30名が10mへの潜水体験をしました。年齢層も10代から70代まで、また女性の方も10名参加するなど幅広く体験しました。

◆ セミナーハウス白鷗館利用状況 (一年間) ◆

	団体名	回数	目的	延べ人数
1	部活動(5団体)	13	強化及び調整合宿	264名
2	同窓会	8	会報委員・理事会	58名
3	学習活動	5	宿泊研修、学習合宿	125名

写真からもわかるように、参加者からは、「とても楽しかった」「別世界が体験できた」「夢が叶って嬉しい」などといった感想が聞かれ、大変好評でしたので、来年度もどしどし参加して下さい。

あの先生は今



氏名：佐藤 基先生
 在任：昭和45～54年
 教科：国語
 現在：一関市在住

21世紀最初の「種高同窓会報」に寄稿する機会を与えて頂きました。会報委員会の皆様

に心からお礼を申し上げます。

私の第二のふるさと種市、

私の教師としての原点種市高等学校、そしていつも私を支えてくれた同窓生の皆様、如何お過ごしでしょうか。

種市高校が久慈高校から分離独立した昭和45年から54年までの9年間お世話になりました。その後、一関第二高校、岩泉高校、田野畑校、県教育委員会、大東高校、水沢高校を経て平成10年3月、お陰様で無事定年を迎えることができました。定年後2年間程、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに勤めましたが、現在は自宅にこもり教師時代

の資料を整理したり、孫と戯れたり、と悠々自適の生活をしております。

編集子からは当時の思い出をといて字制限では何も書くことができず、徒然なるままに箇条書風に見たいと思います。

一、赴任当時専任の音楽の先生が居らず、校歌の練習を作曲者の安藤睦夫先生と共に体育館で指導したこと。しかしさっぱり歌ってくれず苦労したなあ。
 二、着任早々吹奏楽部の顧問。小向隆（46年卒）部長以下部員7人。3年目で県大会出場。部員数30名。自由曲は「こうもり序曲」。入賞

はならずも大きな自信。

三、国語の時間山本先生（現在久慈商業高校）と企画して「百人一首」に挑戦させる。翌年から「かるた大会」を開催。百首全部暗誦できた生徒はおよそ5割、6割。特に小林、三浦、沢口、浜谷（いずれも51年卒）など早かったなあ。県内では草分けか。

四、バレーボール部女子県大会ベスト8までは何度かあったが、その壁を敗れなかったのが心残り。児玉昭子さん（55年卒）がベスト6に選ばれた。

五、担任をした「高城靖雄君」（52年卒）が、大学卒業後歌手としてデビュー。今年二十周年を迎え、「伯方の塩」のテレビコマーシャルにも出演し活躍中

他に、47年野球部が一関で



の春の県大会で、専大北上の畠山投手にノーヒットノーランを喫したこと。合宿所がなく、「宏八屋」さんと交渉して専用の合宿所ができたこと。柔道部、ソフトテニス部、科学部の活躍。グラウンドの整備。

プレハブ校舍（体育館の北側に2教室あった）のボヤ騒ぎ。大雪のため臨時休校の措置が取られたこと。女子の制服の制定。臥牛山の全校登山。（今はどうなっているのかな）等々数えると切りがない。



（前列左）

氏名：佐々木 直美先生
 在任：昭和62年～平成4年
 教科：工業
 現在：花巻市在住
 勤務先：黒沢尻工業高校

種市高校の同窓生の皆様、こんにちは。昨年の五十周年記念式典に出席し、海洋開発科の新実習棟を見学し大変驚きました。

また、テレビや新聞等でも種市高校の活躍を目にすると大変うれしく思っています。

多くの諸先輩方がいる中で心苦しいのですが、私の「当時の思い出」について、ほんの一部ですが書かせて頂きます。

私は昭和六十二年から平成五年の六年間、種市高校でお世話を経た岩手に戻り、はじめての

教員生活が種市でしたので、種市で過ごした六年間は生涯忘れずには無いでしょう。

八戸線で種市に向かい、車中では行商の方が荷を背負い、車窓からは太平洋が見え、なんて素敵な町に来たのだらうと思えました。種市のグラウンドに立つと、松林からは海の潮風や波の音が聞こえ、天を仰げば鷗が見え、本当に自然の息吹を感じながら教員生活を過ごしていたように思えます。当時、新校舎に変わり、科名も水土木科から海洋開発科に変わり、時代は、

バブル全盛期を迎えようとしていました。職場は、芸達者な先方や若い先生方も多く、そんな中で甘えていた一教師かも知れません。生徒会、部活動、海洋開発科一回生の担任・副担任（現宮古工業高校 佐藤惇校長先生）と、とても忙しい毎日でありましたが、生徒達と何かに取り組む面白さを感じ、私に色々な事を教えてくれたのも種高の生徒だったと思います。その一つは、文化祭で行われる演劇でした。台本を書き、音楽を合わせ、夜遅くまで演劇を練習し、生徒達のエナジーを感じるとともに、「教職について良かった」と言う実感も感じていました。実習の海洋調査にしても、夏場冬場と、とても貴重な体験をさせて頂きました。今思えば、生徒の疑問から始まり、それに答えるべく奔走し、生徒と一緒に取り組んだ事が、いまだに工業クラブから抜け出せない私なのかも知れません。

そんな中、授業中ではありま

すが、種高について生徒に疑問を投げかけ、時には授業をつぶして水中土木科の生徒達と一時間も本音で話し合った事もあります。生徒達は授業がつぶれて良かったかも知れませんが私は真剣でした。

新校舎も完成し、卒業式を迎える前日にこんな事がありました。夜、生徒会長から電話があり、「先生、本音で在校生に答辞を送りたいんですが、いいでしょうか」という内容でした。翌日の卒業式で、彼は、目いっぱい涙をためて「新校舎だけじゃなく、自分達が変わらなければ種高は変わらない」と厳しく在校生に問い掛けたのでした。無論、ここからは、校長先生はじめ全職員で涙した感動の卒業式でありました。

そんな種高を後に、現在は、北上市にありますが黒沢尻工業高校土木科で、水中土木科に科長として在職していた新沼昭洋先生と一緒に働いています。現在は、卓球部を持ち、ようやく選抜大会に出場できるようになったところです。また、生徒との研究活動も、今は川をテーマに取り組んでいます。

教師生活半人前の私ですが、また、種高に勤務する機会もあると思いますのでその時はお世話になります。最後になります話が、種市高校同窓生の皆様におかれましては、ご健康で活躍されますことを、また種市高校がますます発展しますことを心からお祈り申し上げ、「当時の思い出」を書かせて頂きました。ありがとうございます。

卒業生登場 「私は今」



昭和46年3月 潜水工業科卒業
東京都世田谷区成城5-14-2
(株)プロデュクス
代表取締役
中井光春

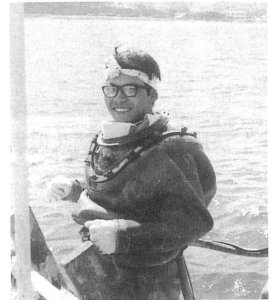
深海作業を得意とする会社に就職し、自分の夢が現実となり、充実した社会人生活を手に入れたのですが、昭和50年4月末、長期の海外出張から帰国した私は、新潟沖で建設中の人工島（石油井戸）へ配属されました。しかし、そこで深海用潜水装置の下敷きとなり、左手薬指を欠損する事故に遭ってしまい、それが元で

東京の高校を卒業間近にした頃、2月の寒風吹き荒ぶ、平内の駅に始めて降り立った時の心細さというか、えも言われぬ心境は、30年経た今でも忘れません。「潜り」に憧れる自分の思いだけではなく、明るい下宿仲間やクラスメートに、慣れない土地での生活を支えられて卒業できたように思っています。

研究し、とある日スーパーマーケットで買ってきた生ラーメンのおいしさに驚き、取りつかれてしまいました。それが「喜多方ラーメン」だったのです。

本場「坂内食堂」の味をそのままに伝える、フランチャイズ「坂内」との出会いが、まさに私の人生を根底から変えてしまうものになりました。そして始めた、たっ

潜水の仕事で締められることになつてしまいました。それからは、家族を養うためにいろいろな職業で、つらい戦いの日々が続きました。その間に毎日の昼食で食べ歩く店々の様子を、客の立場から見



た22席のお店で、麺が見えないくらいチャーシュー麺が、年商2億の売上げをあげたのです。

あれから早11年が経ち、現在では、お店も増え、売上げも順調に伸びています。もちろん、私だけの力ではなく、大勢の方々のお力を借りてここまでやって来れた訳ですが、思い起こせば「潜り」であったというプライド、責任感、辛抱強さ、そして度胸が、今の私の源になっていると思います。短い「潜り人生」でしたが、私が見たものは大変多かつたと思います。

【編集部】

現在、中井氏が経営する会津喜多方ラーメン、坂内（パンナイ）は年商6億、従業員80名で店舗は次の四軒です。

- 〔歌舞伎町店〕 新宿区歌舞伎町1-24の6 03(5273) 2161
- 〔歌舞伎町一番街店〕 新宿区歌舞伎町1-17の5 03(52885) 0455
- 〔三光町店〕 新宿区新宿3-11の6 03(5379) 8101
- 〔調布店〕 東京都調布市布田4-2の1 0424(87) 1855

レスリング部

富山国体 2位

レスリング部の

3年間を振り返って

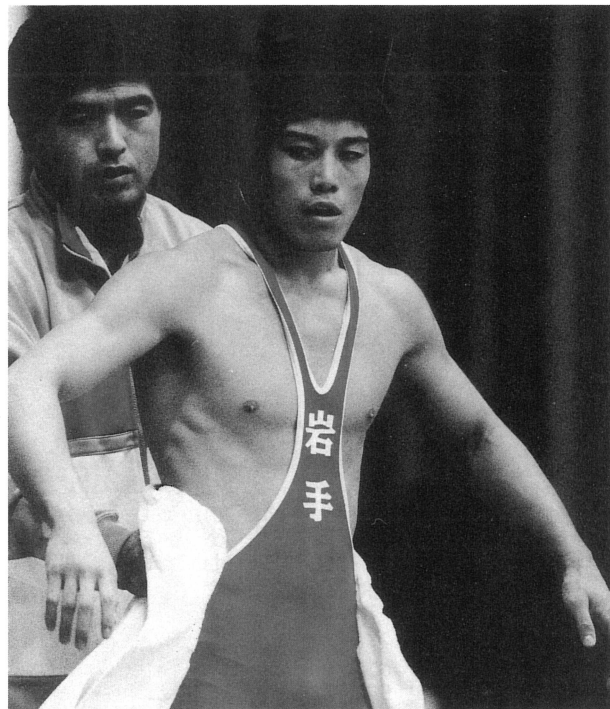
鍋久保 雄太



賞状を手喜ぶ鍋久保君

僕がレスリングを始めたのは小学校1年生の時でした。そのときの先生が現在の種市高校監督である濱道先生と今の種市ジュニアレスリングクラブの監督・コーチである麦沢光英先生(種市町役場)と金沢勝司先生(JA岩手久慈)です。3人も種市高校のレスリング部の先輩です。種市

高校が岩手県の高校総体で初優勝したときの団体戦のメンバーだったと聞きました。僕がチビッコレスリングを始め当初は35人ぐらいのチビッコの仲間たちがいて毎週土曜日の夕方5時から7時までの2時間という少ない練習時間でしたが、全国大会では数回入賞する結果を残せました。そして中学でも同じように、全国の舞台で活躍したいと思いいレスリングを続けました。そして中学校3年の全国大会で一緒にレスリングを続けてきた同級生の岩谷和樹君と出場し、その大会で二人そろって3位に入賞することができました。そして種市高校へ入学し、本格的にレスリングを始めました。高校へは中学2年から通っていたので自然に練習になじみましたが、中学生の頃とは先生の態度が違いました。毎日続けていくうちに今までのチビッコレスリングでの練習がいかに楽だった



決勝戦に臨む鍋久保君。後は顧問 濱道先生

かを痛感させられました。とくにも僕たちが入学した平成十年は学校創立50周年を迎えるというところで絶対に高総体で団体優勝するという先輩たちの強い意志と気迫を感じながら、ただガムシヤラについて行くだけの練習でした。その練習があったからこそ絶対優勝という条件の中での高総体で優勝することができたと思います。

また、2年生の時は地元岩手県で50年に一度の全国大会が開催されるとあって学校での合宿の他に県の強化合宿や県外遠征等が多く計画されました。特に全国大会10連覇している茨城県の霞ヶ浦高校や

栃木県の足利工業大学付属高校といった強豪高校への遠征合宿や学校での合宿はとてつきつい練習でした。この遠征合宿等が力となり、地元岩手インターハイではこれまでのレスリング部最高の団体戦で5位入賞、個人戦でも4人が5位以内の入賞を果たしました。僕も65kg級に出場し5位に入賞することができました。この1、2年生の時の厳しい練習といろいろな経験が3年生になってからの自分に大きな自信となりました。僕の3年生での目標は岩手インターハイで2人の先輩たちが残した3位以上の成績を残すことでした。その岐阜インターハ

イでは準々決勝で優勝候補の霞ヶ浦高校の選手と対戦し3対1で勝つことができました。そして準決勝では2対2のまま延長戦に入り、1ポイントを奪われ3対2の判定で敗れ決勝には進めず3位でした。そしてインターハイが終わってからの九月から十月の富山国体までは必死で練習しました。富山国体では体重調整もうまくいき最高の状態で試合に臨むことができました。順調に勝ち上がり準決勝で再び岐阜の選手と対戦しました。今度は判定で自分が勝ち、インターハイの借りを返すことができました。そして臨んだ決勝戦では、今まで練習してきた成果を100%だそうと気合を入れて試合に臨み、相手から一点も取れずに大差で負けてしまいました。一生懸命頑張った結果2位というところで高校最後の成績としては良かったと思います。

僕は先生方の説得により日本体育大学へ進学することに決めました。僕自身全国2位と言う結果にはどこか満足しないところもあり、どこまで強くなれるのかというのを知りたいというのもあり大学進学を決意しました。大学では高校以上の練習を

重ねていき、今まで一度もなしにない全国大会での優勝をめざし、そしてゆくゆくは世界を目標に頑張っていきたいと思います。

最後に三年間ご指導していただきました先生方にお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。



工業クラブ二連覇

第十一回岩手県工業クラブ連盟生徒研究発表会

テーマ

「水中移動装置の製作」

☆最優秀賞受賞

海洋開発科では、第十一回県工業クラブ発表大会で昨年に続く最優秀賞を受賞し、本校では初の岩手県大会二連覇を果たしました。

最優秀賞は3回目、通算九回の入賞をしており今年度は十回目の入賞、3連覇を目指して頑張っていきたいと思

私の進路



海洋開発科3年 佐々木 海

私は、海という名前のおり、小さい頃から海が大好きでした。そして海に関する仕事に就きたいという夢がありました。

種市高校に入ってから、専門的なことをいろいろ勉強したり、工業クラブで活動しているうちに、大学へ進学し、もっと高度なことを勉強したいと、漠然とはあるけど思っていました。そして工業クラブで活動していて水中の機

械に興味を持つようになり、その経験を生かし更に大学で学びたいと思うようになりました。

三年生になり、具体的に進路を決めなくてはいけなくなり、種高での経験を生かせるような大学を捜していたところ、先生に水産大学のパンフレットを見せてもらい、これだ！と思いました。

受験も終わり、合格発表までの日は長く感じられました。そして、合格と聞いたときはとても信じられない気持ちと嬉しさで一杯でした。

大学へ入ってからは、いろいろなことを勉強して、海のまだ知られていない未知なる部分を研究したり、海のすばらしさをもっと広めたいと思っています。そして、今まで種高を卒業していった先輩がたに負けないくらい、高い目標を持ち、それに向かって進

みたいと思っています。そして、この種市高校を卒業できていることを誇りに思い頑張っていきたいと思っています。

ふるさと紹介 八戸編

我が街八戸は、太平洋に面し海の幸豊かなウミネコが舞う港町で、この地から海岸を沿うように走る、JR八戸線で母校へ通学した同窓生の皆さんも多かったことでしょう。夏は多くの海水浴の人で賑わう白浜海岸、波うち際まで青々と広がる芝生の種差海岸はハマナスの咲く中に遊歩道も整備されました。鮫駅近くにあるウミネコの繁殖地として国の天然記念物の蕪島、そして陸奥湊駅前には潮と魚の独特の匂いを漂わす八戸名物の市場が所狭しと立ち並び朝早



陸奥湊朝市場

くには列車の中で、いさばのかっちゃんを見かけませんでしたか？がながら缶箱の上にくつものダンボール箱を重ね紐一つでかついで歩く行商の人達です。市場では全国の三割が水揚げされるイカを始めホヤや多くの魚介類を扱う店が向き合い通路が狭く、元気がなかつちや達の「買ってがねエガー」の声に驚かされます。

毎週日曜日には、朝市も開かれ駅前から柳橋あたりまで魚の他に野菜や花などが、まだ薄暗いうちからずらりと並びます。たまには前の晩のお酒を控え、眠い目をこすりながら我がふるさとの朝市へ出かけてみませんか。

昭和54年度卒 吉島美樹子

～平成12年度進路状況～

平成13年2月20日現在

就職	普通科		海洋開発科
	管内	5	1
県内	2	1	1
八戸	3	1	1
県外	18	16	
公務員	2	0	
未定	10	0	
その他	0	0	
小計	40	19	
進学	大学	7 (4)	2
	短大	7 (1)	0
	高看准看	2 (2)	0
	専門	14	0
	小計	30	2
合計	70	21	

() は見込数

平成13年度 同窓会総会

日時 平成13年5月25日(金) 18:30～
会場 「割烹 おおた」

但し、上記のことには変更が考えられますので、問い合わせの上、ご出席ください。

東京支部総会

日時 平成13年6月23日(土) 18:00～
会場 「労働スクエア東京」

を予定しています。

詳細については新保幸則支部長（東日本海洋会社 ☎0436-22-5114）まで連絡ください。

八戸支部総会

日時 平成13年7月21日(土) 18:00～
会場 「芝亭ロー丁店」

但し、上記のことには変更が考えられますので、問い合わせの上、ご出席ください。

久慈支部設立総会

日時 平成13年4月21日(土) 18:00～
会場等詳細につきましては改めてご案内いたしますのでご出席ください。

陸上競技部のOBの方へ

陸上競技部のOB会を、この夏（お盆のころ）母校を主会場として開催する予定です。詳しい内容は、確定次第連絡致しますのでご参加ください。

陸上競技部OB S54年度卒 吉島美樹子
(旧姓 中里) 林下 義則
S57年度卒 林下 義孝
H3年度卒 林下 義孝

このような伝言、あるいはクラス会などの案内がある場合は、このコーナーをご利用ください。同窓会報編集事務局 FAX 0194-65-5654。

平成12年度 同窓会収支予算書

1 収 入 (単位 円)

項 目	前 年 度 決 算 額	本 年 度 予 算 額	比 較 増 減		摘 要
			増	減	
1. 繰越金	960,984	1,041,998	81,014		前年度繰越金
2. 会費	435,150	435,000		150	290人×150円×10ヶ月
3. 年会費	282,000	320,000	38,000		320件×1,000円
4. 雑収入	82,610	3,002		79,608	銀行利息、記念誌、名簿
合 計	1,760,744	1,800,000	119,014	79,758	

2 支 出

項 目	前 年 度 決 算 額	本 年 度 予 算 額	比 較 増 減		摘 要
			増	減	
1. 事務費	23,625	50,000	26,375		プリンターインクリボン、タックシール等
2. 通信費	39,810	50,000	10,190		理事会・総会等案内（切手代）
3. 印刷費	—	50,000	50,000		振込み用紙印刷等
4. 会報費	292,595	320,000	27,405		会報印刷代、会報送料
5. 会議費	25,316	100,000	74,684		総会、役員会、各委員会
6. 旅費	116,180	100,000		16,180	東京支部総会（2名）
7. 事務局手当	20,000	20,000			
8. 支部援助費	100,000	150,000	50,000		各支部（東京、八戸、久慈）
9. 卒業記念費	35,275	50,000	14,725		卒業証書入れ筒
10. 交際費	15,000	30,000	15,000		職員歓迎会、送別会
11. 雑費	50,945	80,000	29,055		郵便振込み手数料等
12. 予備費	—	800,000	800,000		
合 計	718,746	1,800,000	1,097,434	16,180	

インフォメーション

同窓会事務局からのお願い

● 同窓会費の納入について
同窓会の運営資金は、在校時の同窓会費と会員の皆さんからの年会費で賄われています（収支内訳は別表参照）。事業支出の中でも最も大きいのは会報の発刊・送料です。一年に一回の発行ですが、全国で活躍されている会員の皆さんと母校を結ぶ掛橋として継続発刊し、できるだけ多くの会員のお手元に届けていきたいと考えています。

現状にあります。つきましては、会員皆様の絶大なご協力を賜りたく、会費納付についてご案内を申し上げます。

● 名簿の整備について
住所や姓の変更があった方また、住所録に間違いのある方等ご連絡ください。会費を納入された方は、自動的に名簿が確認されます。クラス会の案内の際などに協力いたします。

※個人情報につき内容を確認します。

会員の活躍情報を お寄せ下さい

同窓会員で活躍されている方について情報を寄せてください。全国各地で活躍されている方々を同窓会編集委員が取材し、会報を通じて紹介していきたいと思っております。

自薦他薦を問いません。お気軽に情報をお寄せください。一頁発行連絡先（吹切）まで

編集後記

会報委員では、玉沢委員長を筆頭に9人で、セミナーハウス白鷺館に集まり編集作業を行っております。委員のみなさんは仕事の疲れも見せず同窓生に楽しんでいただく会報にしようと2時間を超える会議をかさねています。会報を読んでもくださった同窓生の方々に私たちの熱意が伝われば幸いです。

今回原稿を依頼した先生方、同窓生のみなさん大変ありがとうございました。同窓生のみなさんも今後寄稿依頼があった場合は、快く引き受けてくださいますよう御協力お願いいたします。

(麥)